

宗像市市民参画等推進審議会 会議録（要点筆記）

日 時	令和 8 年 8 月 18 日（火） 9：30～12：30			
場 所	市役所 南館 201A 会議室			
委 員	☒ 朝倉拓郎 ☐ 高山國敏 ☒ 水島直子	☒ 今津理恵 ☒ 種田明美 ☐ 米倉仁美	☐ 賀来元彦 ☐ 中村昌史	☐ 鈴木邦治 ☒ 福岡佐知子 （五十音順、敬称略）
事務局	コミュニティ協働推進課 ☒ 高山 ☒ 濱本 ☒ 平川 ☒ 綱脇			

1. 本日のスケジュールについて

事務局から当日のスケジュールや審査会の流れ等について説明

2. 令和 8 年度宗像市人づくりでまちづくり事業補助金【追加募集分】審査会

【めぶきコース】

①団体名：つながる縁側

申請内容：備品購入、団体 PR 等

団体から申請内容について説明後、委員との質疑応答

（委 員） なぜ農作業の事業を行おうと思ったのか。また、野外で活動する上で気をつけていることはあるか。

（団 体） 園芸療法は心身のケアにつながるという実証がされており、高齢者等の健康維持に効果的であるため。野外での活動であり、暑い日や雨の日は活動を行わないようにしている。また、今は日除けのためにテントを使用しているが、屋根付きの休憩スペースを準備する予定である。

（委 員） 野菜作りのオンライン講座をコアメンバーが受講した後はどうするのか。また、参加者が畑のある場所に行くまでの交通手段についての考えを聞かせてほしい。

（団 体） コアメンバーの 5 人にオンライン講座を受講してもらい、そこから他の参加者に広めてもらう。畑に来るまでの交通手段については、車を持っていない人や車いすの方でも参加できるように、参加者同士で乗り合わせをしてもらったり、福祉車両を借りたりすること等を検討している。

（委 員） 車いすの方も畑での作業ができるのか。

（団 体） 実際に試してみて、車いすの方も作業ができることを確認している。

（委 員） 団体の活動が本業の延長になっていないか。

- (団 体) 本業と団体の活動は切り分けている。当初の参加者は、職場で関わる人が多かったが、その人たちを通じて少しずつ地域住民の人にも広がってきている。また、コミュニティ・センター等の地域の人が集まるところに出向いての広報活動も始めている。
- (委 員) 団体のロゴを制作することの必要性は。
- (団 体) 団体の認知度や信頼性を高めることができ、それによって地域の協力を得たり、新規参加者を増やしたりすることにつながると考えている。

②団体名：ハンドメイド・夢 na 形

申請内容：備品購入

団体から申請内容について説明後、委員との質疑応答

- (委 員) ハンドメイド作家が集まっている団体ということだが、子ども達への体験活動を行うときは、作家としてではなく、ワークショップの運営スタッフとして携わるということか。
- (団 体) そのような認識で間違いない。
- (委 員) この活動で目指すことは何か。
- (団 体) 子ども達がものづくりの体験を通して、「自分でもこんなことができる」という経験をしてほしい。
- (委 員) ワークショップは例えば子ども達が歩いていけるような地域等、サンリブ以外で実施する予定はあるか。
- (団 体) 8月に宗像ユリックスで行う。また、地域の子ども会等から依頼があれば、そこに出向いて開催することもある。
- (委 員) ワークショップの回数が2025年から大きく減少している理由と参加費の内訳を教えてほしい。なお、チラシの作成経費を計算するのは、団体を運営する上では当然のことであり、課題ではない。SNSを活用する等広報の方法を工夫してほしい。
- (団 体) 回数の減少はサンリブの担当者が変わり、会場を押さえることが難しくなったこと、継続して事業を実施していく中で、団体の負担が大きくなり、人まち補助金終了後の2025年からは同様に活動を行っていくことが難しくなったことがある。参加費550円の内訳は、材料費500円チラシ代50円。材料費は準備した作家に渡す。広報の方法については、直近のワークショップのチラシは作成せず、SNSを活用する等工夫を始めている。
- (委 員) 人まち補助金は団体が自立して活動できるように成長していくことを目的の一つとしている。参加費を上げるか作家に渡す材料費を下げるかどちらかをしなければ、自立して活動を続けていくことは難しいと思う。
- (団 体) 工夫ができるように団体内で協議を重ねている。今回申請したカッティ

ングマシンを使用することで、材料費を抑えることができると考えている。

(委 員) 作家としての活動とワークショップでの活動はどのように切り分けているか。

(団 体) 集客の面で、マルシェとワークショップを同時に開催することもあるが、ワークショップの運営に携わる時は、作家としてではなく、運営メンバーとして活動しており、作家自身の販売に関係のないようにしている。

③団体名：こえラボ

申請内容：備品購入、イベント実施、団体 PR

団体から申請内容について説明後、委員との質疑応答

(委 員) コミュニティ・センターでプロジェクターとスクリーンを借りることもできるが、あえて今回購入する理由は。また、対象は小学生か。

(団 体) 地域のまち歩きする際、地域の商店等を利用して事業を実施する等コミュニティ・センター以外での使用の想定しているため。対象は現時点では小学生のみ。ただ、今後中学生や高校生にも団体の活動に関わってもらいたいとは思っている。

(委 員) 団体の活動を始めたきっかけと運営メンバーが集まった経緯について教えてほしい。

(団 体) 自分子どもと接している中で、他人と会話する機会が減っていたり、家庭によって体験をする機会に差があったりすることを感じている。子どもの時の体験が大人になったときに大きく影響を与えるため、子ども達に色々な体験をさせたいという想いから団体を立ち上げた。その想いに共感してくれた教育大学の学生がメンバーになっている。

(委 員) 外部講師を招いての事業は補助金終了後も続けていくのか。

(団 体) 自分達も外部講師から学び、ゆくゆくは団体内で実施できるようにしていきたい。

④団体名：あかちゃんの育つ環境を守る会・ゆるりんこ

申請内容：視察研修

団体から申請内容について説明後、委員との質疑応答

(委 員) 申請内容の講座を受講した後はどのように学んだことを活かしていくのか。

(団 体) 10BHS の講座は「はじめのいっぽ」事業をしているメンバーが受講し、

そこで学んだことをセミナーの中で参加するお母さんたちに伝えていく。身体調和支援基礎講座は、合格すると資格を取得することができ、講座を開催することもできるようになるため、自分たちの仲間だけでなく、他の団体等にも伝えて支援の輪を広げていきたいと考えている。

- (委 員) 10BHS に関する配布資料について説明をしてほしい。
- (団 体) 本から抜粋したもので、おそらく作者が伝わりやすい表現と思って書いたものである。偏った価値観を押し付けるものではない。
- (委 員) 2024 年に飛騨市で導入されていると説明があったが、どのように実施されているのか。
- (団 体) 飛騨市が主体となって、市民に向けて講座を開催している。赤ちゃんを育てにくいと感じているお母さん達が多いということを感じた保健師が、10BHS の手法をまとめて広げていっている。
- (委 員) この手法は医学的に知見がある人がまとめたものなのか。
- (団 体) 医者ではないが、保健師が開発したもの。飛騨市では、これを始めたことで、子育てが楽しいと感じる方が増えてきていて、評価は高いものであると考えている。
- (委 員) 地域の取り組みとして出てきたもので、全国的にはこれから広まっていくものか。
- (団 体) 飛騨市の取り組みが注目されており、全国でも専門家が増えてきている。講座は基礎から上級まであり、全国で多くの方が受講している。
- (委 員) シェルハブ・メソッドとの関わり、違いは。
- (団 体) シェルハブ・メソッドは赤ちゃんの行動を探索するもの、10BHS は赤ちゃんの体を緩めて整えるもの。10BHS とシェルハブ・メソッドは両方必要なもの。赤ちゃんの体を緩めてあげるのと同時に、自由に体を動かすことを邪魔しないように見守る力を身につけることが必要である。
- (委 員) 団体の構成員は現在子育てをしている方もいるのか。
- (団 体) 子育て中のメンバーもいる。現在メンバーは 5 人だが、事業継続のために新しいスタッフも育てていく予定。

【みのりコース】

①団体名：シェルハブ・メソッド宗像

事業名：赤ちゃんの発達を学ぶ講座事業

市関連部署：子ども家庭センター

団体から申請内容について説明後、委員との質疑応答

- (委 員) 子育ての手法として、シェルハブ・メソッドが良いと思う理由は。
- (団 体) 現在、赤ちゃんの行動を訓練するような手法は存在するが、赤ちゃん自身が無理なくやりたいように動けるようにフォローし、自然な運動発達

を促すというシェルハブ・メソッドの考え方が新しいと思ったため。

(委 員) シェルハブ・メソッド宗像の代表は、昨年、別団体で人まち補助金を受けており、今回は新しい団体での申請だが、メンバーが赤ちゃん育つ環境を守る会・ゆるりんこの代表、副代表である。シェルハブ・メソッド宗像と昨年補助金採択された団体、ゆるりんことの目的や役割の違いを説明してほしい。

(団 体) 去年は、ママボラむなかたという団体に補助金をもらった。ママボラむなかたは子育て支援ではなく、子育てサークルのようなボランティア団体。ゆるりんこは、養育者と第一子の赤ちゃんが対象のセミナーを実施している、シェルハブ・メソッド宗像での講座では、養育者はもちろん、支援者も対象にしている。現在開催している講座の参加者の8割は支援者の方。

(委 員) SNSでの発信だけだと不安を抱えたまま、孤立する人がいるかもしれない。動画等を見た人が講座に行こうと思えるような工夫やアイデアはあるか。

(団 体) インスタグラムから講座参加の間に公式LINEの活用を考えている。インスタグラムにはショート動画しか掲載できないので、公式LINEに少し長めの動画を掲載する予定。そこに講座を受けるとどうなるかという内容も含めたい。

(委 員) シェルハブ・メソッドを広めるための活動に公共性があると考えているのか。

(団 体) 養育者や支援者にとって赤ちゃんを見る目を養うというところに公共性があると考えている。子育て支援の現場では、赤ちゃんの行動を見るポイントが分からないというお母さん達が多いと感じている。情報がありすぎてどうしていいか分からなくなっている人が社会的にも増えている。だからこそ、シンプルに赤ちゃんを見て、観察眼を養うということが必要である。

(委 員) 団体名にメソッド名を掲げているが、派閥ができてしまったり、個別の利害につながったりしないか。

(団 体) 団体メンバーの個人的な見解を伝えるのではなく、国際的な指導者資格があるメソッドを伝える場ということが明確に伝わる方が公共性があると考えている。

②団体名：特定非営利活動法人むなかた子ども劇場

事業名：生の舞台芸術を体験しよう～観て楽しいだけじゃない！

市関連部署：子ども育成課

団体から申請内容について説明後、委員との質疑応答

(委 員) 今回宗像在住のアーティストを講師にした理由は。

(団 体) 普段は近隣の4つの子ども劇場でイベント等を実施しているが、今回初

めて宗像だけで行う。主体で動くメンバー経験が浅く、遠方から講師を呼ぶのは予算的にも難しいため、スケジュールが合わせやすかった方を呼ぶことにした。

(委 員) 今回の事業は、参加する子ども達や団体にとってどのようなメリットがあるか。

(団 体) 子ども達に身近にこのような活動をしている人がいることを伝えられる。また、その人がどんなことをしているかを実際に経験するという普段できない体験を提供できる。

(委 員) 事業のチラシは、全小中学校に配布するか。

(団 体) 普段は、会員が在籍している学校に直接依頼をしているため、現時点で全小中学校に配布できるかは分からない。

(委 員) ワークショップはどのように行うのか。

(団 体) 講師のパフォーマンスを見た後、子ども達に大きな紙に自由に書いてもらうという内容を考えている。それを見て、みんなで感想を言い合い、好きなところを切り取って持ち帰るということもできたらと思っている。

(委 員) 慣れていない人にとっては単に感想を言い合うのは難しく、ファシリテーションの技術が重要になってくるが、工夫等は考えているか。

(団 体) 会員の子ども達は普段からやっているので比較的慣れているが、今回は初めて参加する子どももいるため、工夫はこれから考えていきたい。

～ 閉会 ～